

12月5日 エレミヤ書36章1～10節 今日の説教から
説教題：「赦しのために与えられたイエス様」

先週の礼拝でイザヤが語っていた「バビロン捕囚」は、旧約聖書に流れる「罪に対する因果応報」という思想によって「イスラエルの民に原因がある」と語られています。バビロン捕囚の前後の時代に記されたエレミヤ書が今日の個所なのですが、ここで預言者エレミヤは、神様の命令によってイスラエルの民に対して厳しい神様の言葉を届けに行くことになります。当時イスラエルの民は北部イスラエル王国、南部ユダ王国に分裂しており、それぞれが隣接する強大な国と敵対関係にありました。先にイスラエル王国はアッシリアに滅ぼされ、そしてその後ユダ王国はバビロニアに滅ぼされることになります。今日のエレミヤ書36章はちょうどその間、ユダ王国が滅亡してしまうという預言を受け取ったエレミヤによって語られています。

エレミヤは、神様によって預言者に選ばれたのですが、彼自身は「自分に預言者など務まらない」と、その勤めを拒否しようとしました。何より、彼に課せられた任務は「ユダ王国の人々に、国の滅亡を伝える」という極めて酷なものでした。エレミヤは人々から拒絶され、迫害を受けることになります。そのような中にあっても、今日の個所でエレミヤはどうにかユダ王国の人々が滅亡することを避けられないかと考えました。彼らが「悪の道から立ち帰ることによって神様に報いてもらおうとエレミヤはユダの王ヨヤキムに働きかけましたが、ヨヤキムは自分たちが「悔い改めなければいけない存在である」と認めませんでした。

いま、現代を生きる人々の中でどれだけの人が「あなたは悔い改めなければいけない存在である」と語り掛けられて、それを信じることが出来るのでしょうか。物質的に満たされたことによって神様の声が聞こえなくなっている人が多くいるように思います。私たちは、この難しい時代において、神様から伝道・宣教の業を期待されているのです。

ただ、どれだけ厳しい時代であっても、私たちには希望があります。イエス様の十字架は、どのような人間の業によっても「なかったこと」にはできません。神様は私たち人間のことを救おうと考えて、イエス様をこの世に遣わしてくれました。その神様の思いは、イエス様の十字架によって成就しているのです。エレミヤに課された任務は、罪の中にいる人々に「あなたたちは滅びる」と宣言することでした。私たちに課された任務は、神様から赦されて救われていることを知らない人々に対して、「あなたは孤独ではない」という事を、「あなたには神様が共にいる」という事を、「あなたは愛されている」「大切に思われている」という事を伝えることなのです。神様の期待に押し出されて、今週一週間を、クリスマスまでの日々を、イエス様の言葉を実現するものとして共に歩んでいきましょう。

今日の説教箇所：エレミヤ書36章1～10節

- 1:ユダの王、ヨシヤの子ヨヤキムの第四年に、次の言葉が主からエレミヤに臨んだ。「卷物を取り、わたしがヨシヤの時代から今日に至るまで、イスラエルとユダ、および諸国について、あなたに語ってきた言葉を残らず書き記しなさい。ユダの家は、わたしがくだそうと考えているすべての災いを聞いて、それぞれ悪の道から立ち帰るかもしれない。そうすれば、わたしは彼らの罪と咎を赦す。」エレミヤはネリヤの子バルクを呼び寄せた。バルクはエレミヤの口述に従って、主が語られた言葉をすべて卷物に書き記した。エレミヤはバルクに命じた。「わたしは主の神殿に入ることを禁じられている。お前は断食の日に行って、わたしが口述したとおりに書き記したこの卷物から主の言葉を読み、神殿に集まった人々に聞かせなさい。また、ユダの町々から上つて来るすべての人々にも読み聞かせなさい。この民に向かって告げられた主の怒りと憤りが大きいことを知って、人々が主に憐れみを乞い、それぞれ悪の道から立ち帰るかもしれない。」そこで、ネリヤの子バルクは、預言者エレミヤが命じたとおり、卷物に記された主の言葉を主の神殿で読んだ。
- 9:ユダの王、ヨシヤの子ヨヤキムの治世の第五年九月に、エルサレムの全市民およびユダの町々からエルサレムに上つて来るすべての人々に、主の前で断食をする布告が出された。そのとき、バルクは主の神殿で卷物に記されたエレミヤの言葉を読んだ。彼は書記官、シャファンの子ゲマルヤの部屋からすべての人々に読み聞かせたのであるが、それは主の神殿の上の前庭にあり、新しい門の入り口の傍らにあった。